論 文 審 査 の 要 旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士（　　教育学　　） Ph.D.	氏 名 (Candidate Name)	岡　野　靖　子
学位授与の要件	学位規則第４条第[1]・２項該当		

論　文　題　目 (Title of Dissertation)
ピア・フィードバックに対する日本語学習者の意識とエンゲージメント

論文審査担当者 (The Dissertation Committee)

主　　査 (Name of the Committee Chair)	教　授	畑　佐　由紀子
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教　授	柴　田　美　紀
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教　授	永　田　良　太
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教　授	渡　部　倫　子

〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)

本論文では，中・上級日本語学習者を対象として，ピア・フィードバック活動における学習者の意識と学習者の修正行動の変化を縦断的かつ多面的に検討したものであり，以下の研究目的を設定して遂行された。

研究目的（1）ピア・フィードバックの与え手・受け手，そして，書き手それぞれの意識は，継時的にどのように変化するのかを明らかにする。（調査１）

研究目的（2）学習者のピア・フィードバックに対するエンゲージメントには，情意・認知・行動面において，どのような特徴があるのかを明らかにする。（調査２）

本論文の構成は，全５章からなる。

第１章では，本論文の背景および研究目的，本研究の意義を述べた。

第２章では，ピア・フィードバックに関する先行研究を概観し，本研究の核となる学習者意識およびエンゲージメントに焦点を当てた研究を考察した。そして，先行研究ではピア・フィードバックの受け手，与え手，書き手となる学習者の一側面のみに焦点が当たっていることや，学習者の修正行動は修正結果をもとに分析しており，修正に至る過程に目が向けられていない点を指摘し，本論文の目的と意義を述べた。

第３章（調査１）では，ピア・フィードバック活動に参加した学習者の与え手・受け手・書き手としての意識の継時的な変化を検討した。その結果，与え手意識は，学習者の日本語能力や作文力のレベルを問わず，時間の経過とともに，肯定的に変化していた。一方，受け手意識は，中・上級学習

者ともに，意見の違いも一つの学びとして捉えられ，与え手意識同様，肯定的に変化していた。そして，これらの役割を通して，書き手にとっても，他者との対話を通し，自らの学びに責任を持つ態度が涵養されていた。

第４章（調査２）では，学習者がピアから受けたフィードバックをもとに，推敲時に情意・認知・行動面でどのようなエンゲージメントを見せるかを明らかにするため，事前・事後の作文意識の変化パターンを踏まえて分析した。「情意面」を分析した結果，初稿執筆時の書くことへの緊張感や不安感，内容に対する難しさや悩みなどの感情は，第２稿執筆時には，主に内容・構成面に関連するものへと変化していたことが分かった。また，読み手意識や批判的思考力など，書き手に欠かせないスキルに関する感情も確認できるようになっていた。「認知面」では，文法や語彙，接続詞や接続表現は，批判的に検討されることは少なかったのに対し，内容面は全員が批判的に検討し，多様なストラテジーを用いていた。「行動面」については，内容について負の感情にあった者も，概ね積極的に修正行動をとることができていたことが分かった。そして，これら３つのエンゲージメントの結果，第２稿は初稿よりも評価点が向上した。また，事前・事後で意識が変化したグループは，重視するようになった側面の順に評価点が向上しており，作文意識の順と一致していた。

第５章では，第３章と第４章の結果を踏まえて総合考察を行った。ピア・フィードバックに対する学習者意識やエンゲージメントが肯定的に受け止められるようになった要因の一つには，学習者自身が認識していたトレーニングの効果が示唆された。また，教師は学習者が示すエンゲージメントだけでなく，それが作文意識によって異なるかということも把握することで，その特徴に応じた支援（授業の目的や書く目的に応じた評価のポイントや使用言語によって異なる書き方の違い，ストラテジー指導等）につなげられることがわかった。

本論文は次の３点で高く評価できる。

1. ピア・フィードバック活動の効果を受け手・あるいは与え手という一視点ではなく，与え手・受け手・書き手の全てを担う学習者という複合的な視点で分析した初めての研究である。
2. 先行研究では未検討であった学習者の修正行動を多次元的観点から説明することができた。
3. ピア活動における事前指導の重要性を示すことができた。

以上，審査の結果，本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和　５年　２月　８日

備考　要旨は，1,500字以内とする。
(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)